

令和 4 年 6 月 23 日現在

機関番号：14201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K02542

研究課題名(和文) W.B. イェイツ、パウンド、ヘミングウェイと狂言：「笑い」と「間」の詩学

研究課題名(英文) W.B. Yeats, Pound, Hemingway and Kyogen: Poetics of Laughter and MA

研究代表者

真鍋 晶子 (Manabe, Akiko)

滋賀大学・経済学部・教授

研究者番号：80283547

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：「笑い」と関連づけられることが少ないW.B.イェイツが、「笑い」の演劇たる狂言に劇作の突破口を得た点を解明し、また「間」の詩学が英語圏モダニズムに果たした意義をイェイツ、パウンド、ヘミングウェイに検証した。イェイツが「狂言」として書いた戯曲『猫と月』を中心に、論文を発表。同時に「イェイツと笑い」をテーマに企画した国際学会(於京都)で、本戯曲の狂言師による能舞台での公演を実施する成果発表も行った。ヘミングウェイは詩を中心に論文発表。それが注目され、米国製作ドキュメンタリーに出演した。さらに、イェイツ、ヘミングウェイの創作を支える詩学を提供したパウンドによる戯曲研究に、本研究の発展をみた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

イェイツの戯曲と能の関係には既存研究があるが、狂言との関係はほぼ扱われてなかったため、イェイツ研究に新しい光を当てた。国際学会で発表した結果、日本の伝統演劇能楽が悲劇的・シリアスな能だけでなく、笑いの原理を持つ狂言と二本立てで成立し、両者が合間ってイェイツの演劇や詩学と通じると認識された。この意義が認められ、国際学会での講演や発表に次々に招待され、またオックスフォード大学など評価が高い出版局からの研究書への寄稿も依頼された。さらに、能楽師・狂言師との研究協力の結果として、イェイツの戯曲の狂言公演、能楽師による講演やデモンストレーションを行い、国内外の研究者及び一般の人々へ研究成果を還元した。

研究成果の概要(英文)：This study examined how kyogen, Japan's traditional theater of laughter, contributed to a breakthrough in the dramaturgy of W.B. Yeats, a perspective rarely discussed in past scholarship. Additional research on Yeats, Ezra Pound and Hemingway, explored the Japanese philosophical principle of MA in the poetics of modernist literature. With my research on Yeats's play, *The Cat and the Moon* which Yeats intended to write as a kyogen, I delivered and published papers both internationally and domestically. A collaboration with kyogen and Noh actors culminated in holding an international conference in Kyoto with the theme "Yeats and Laughter," commissioning Sengoro Shigeyama Troupe to perform this play on a Noh stage.

Research on Hemingway's poetry, resulted in presentations and the publication papers which, led to being interviewed for PBS documentary on him. In a separate project, I examined Pound's plays whose poetics motivated Hemingway and Yeats, an area remained largely unexplored.

研究分野：英語圏文学・比較文学

キーワード：W.B. イェイツ エズラ・パウンド アーネスト・ヘミングウェイ 能狂言 間 詩学 イメージ 笑い

1. 研究開始当初の背景

(1) イェイツ、パウンドと能楽：既存研究

アイルランドの国民詩人であり、アイルランド国立演劇協会・アベイ劇場を設立した W.B. イェイツが自らの劇作に行き詰まっていた時、アメリカ出身の詩人エズラ・パウンドに日本の伝統芸能である能楽を紹介され、新たな境地に至ったことは周知の事実である。ただし、既存研究は、能楽のなかでももっぱら能に目を向け、イェイツとパウンド、それぞれが狂言として書いたと明言している作品があるにもかかわらず、二人の作品・詩学と狂言の関係を追求した研究はほぼ見られなかった。

(2) 見過ごされていた狂言の重要性

本研究開始までに、イェイツ、パウンド、さらにヘミングウェイと狂言に関して、国内外において論文の発表を続けており、特に 2015 年開催の国際イェイツ協会の第一回大会（於アイルランド、リムリック）での口頭発表の斬新さゆえに、それ以後国際学会での講演や発表に招待される機会が増えていた。

2. 研究の目的

イェイツ、パウンドが「狂言」との出会いから生み出したことの探求を基軸にする。「笑い」と「間」を主眼に、以下 5 点を追求することで、東西交流が英語圏モダニズムにもたらした結実、さらに、その現代における意義を示す。成果を論文発表・出版、狂言公演の形で世界に発信する。

(1) イェイツと「笑い」および「狂言」

従来「笑い」と関連づけられないイェイツが「笑い」の演劇たる狂言に劇作の突破口を見出した点を解明する。イェイツにおける「笑い」の意味の追求、また、イェイツの演劇と狂言（大きくは能楽）の舞台空間・ドラマトゥルギーとの親和性という二つの主軸をもつ。

(2) イェイツ、パウンド、ヘミングウェイと「間」

日本的原理である「間」の詩学が英語圏モダニズムに果たした意義を、イェイツ、ヘミングウェイ（既存研究が少ない詩を対象に）、また、この二人の創作の原動力たるパウンドに検証する。

(3) パウンドの「狂言」

パウンドが「狂言」を意図して書いた作品には既存研究がほぼ存在しない。その意義を検証し、周知する。狂言としての上演の可能性も探る。

(4) 久米民十郎

パウンド、イェイツと能楽の遭遇に舞踊家伊藤道郎が果たした役割は有名だが、その旧友で、パウンド、イェイツ、ヘミングウェイを魅了した画家久米民十郎の存在はあまり知られていない。能・狂言を幼少期から習い、パウンド、イェイツの能楽理解の大きな助けとなった久米が果たした役割も明確にする。

(5) ラフカディオ・ハーン

イェイツと書簡を交わし、イェイツが演劇作品の自注のなかで言及もしているアイルランド出身のハーンは、イェイツがアイルランドで古来伝えられてきた文化・語り・うた・異界との関わ

りが消えんとする状況への危惧感を抱き、自らの「言葉」によってそれらを救ったのと同様のことを日本において行った。ハーンを検討することは本研究に異なった切り口を提供する。

3. 研究の方法

当初は 2017-19 年度で研究を予定した。予定以上の成果をあげて研究を遂行し、2020 年 3 月パリに於ける論文発表で完了予定だったが、母親の手術による介護で出張が不可能となり、最終報告を 2020 年度国際学会の発表に変更し、1 年延長を認められた。(パリでの研究会は結果的にはコロナ禍で中止された。)ところが、2020 年度の国際学会はことごとく延期され、海外出張の機会はなく、2021 年度へ再延長をした。2021 年度は、招待を含め国内外での学会発表を 5 回行ったが、全てオンライン実施だったので、本研究の最終報告を兼ねたシンポジウム(研究会)を企画、その結果を冊子とすることで本研究の完成を見た。

(1) 図書・研究環境整備

本研究に必須の書籍、基礎資料、機器を充実させた。

(2) 資料蒐集(国際学会前後及び国内)

コロナ禍のため、2020 年以後対面での国際学会が中止されたため、イエイツの草稿を管理する代理人から許可を得ていたアイルランド国立図書館をはじめとする、アイルランド・アメリカの図書館に出向いての資料蒐集はできなくなった。京都中心に能楽関係の資料蒐集、また、久米民十郎の作品や個人資料を管理する神奈川県立近代美術館への調査を行い、資料をデジタル化した。さらに、開始時に想定していなかった賀川豊彦とイエイツの関係の発見という、賀川研究のなかでも未知の事実に至ったため、賀川豊彦松沢資料館との連携を密に行うことになった。国内移動も憚られたためインターネットでのやりとりを主としている。

(3) 国内外の学会発表および研究交流

アメリカ、フランス、アイルランド、韓国、英国など国内外での学会発表の結果、他学会での講演や国際シンポジウムでの基調講演に招聘され、またアイルランドや英国の大学出版局などから出版される国際的学術誌や学術書への投稿を依頼された。このように国際学会での成果発表が研究交流を呼び、続く新たな研究に導かれた。

(4) 能楽師の聞き取り

能・狂言理解に関して、能楽師の聞き取り調査を行った。特に大蔵流狂言茂山千五郎家の狂言師、観世流シテ方・高安流ワキ方能楽師の協力をあおぎ、能楽の演技や公演の実際を知る演者との研究交流は、机上の研究だけではない本研究の特殊性を生み出す源となった。

2017 年、日愛外交成立 60 周年記念事業の一つとして、イエイツとハーン作品を、茂山千五郎家によりアイルランドで狂言公演することを企画・運営し、準備段階、公演旅行中、帰国後の凱旋公演の際に意見交換を行ったことが本研究に加えた意味は大きい。

4. 研究成果

イエイツが「狂言」として書いた戯曲『猫と月』を中心に、学会発表、論文出版。「イエイツと笑い」をテーマに企画・運営した国際学会(於京都)で、本戯曲の狂言版を能舞台において公演、狂言師との研究協力の実践的成果発表を行った。また、海外では日本ほど認知度のないハーンとイエイツの関係を加え、イエイツ研究に新たな光をあてた。ヘミングウェイについて

は未発掘の分野であった詩に関する学会発表、論文出版に加え、米国製作のドキュメンタリーに出演したことが成果発表の一端となった。イエイツ、ヘミングウェイの創作を支える詩学を提供したパウンドは、本研究の根幹に位置させ続けたが、同時に、既存研究がほぼない、パウンドが「狂言」として書いた戯曲についての研究を着手した。また、研究遂行中に、想定していなかった賀川豊彦とイエイツの関りと、ヘミングウェイの生涯の友チンク・ドーマン＝スマイスのアイランド性という発見があり、今後の研究に発展させて行く所存である。

以下、

国際学会での論文発表・招待講演（10回）国内の学会での他発表・講演（11回）、論文等出版（報告書1冊、学術書6本、学術誌・紀要3本、翻訳1本、学会 proceedings 1本、学会会報・新聞・冊子7本）で扱った内容を具体的にまとめる。

(1) イェイツに関する新しい視点 笑いとハーンを通して

2015年の International Yeats Society の第1回大会で狂言とイエイツの関係を発表し、イエイツ研究に新しい視点を開いて以来、狂言とイエイツについての新たな面を加えているが、本研究初年の2017年開催されたニューヨークでの大会においては、同年夏のアイランド公演と凱旋公演の成功に加えて、国際的にはまだ認知度の低いハーンに関して、イエイツとの関係、また『猫と月』と同時公演のために依頼した新作狂言を紹介し、イエイツ研究に新しい面切り口を与えた。また、ニューヨークでの大会は、翌年の京都大会の企画をする国際研究交流の場となった。その京都大会のテーマを「イエイツと笑い」とすることを発案、『猫と月』が収録された戯曲集『車輪と蝶』を扱う基調シンポジウムを企画し、論文発表も行った。このシンポジウムの重要性が認識され、*International Yeats Studies*で特集号が生まれ、そこに『猫と月』について執筆する依頼をうけた。この特集号作成のため、アイランド、アメリカ、フランス、ノルウェイの研究者との国際研究連携を行った。

また、イエイツとハーンについては、同年秋韓国での国際学会に招聘され、狂言・劇・映画という他の媒体への翻案の意味を発表、さらに2019年ダブリン開催のIASILの大会でそれを発展させた発表を行った。ダブリンでの大会後、Yeats Summer School が開催されているスライゴーに移動し、Theatre Roundtable において、イエイツによる創設以来アイランド演劇を牽引しているアベイ劇場の現監督、スライゴーでイエイツの演劇を中心に上演しているブルー・レインコート・シアターの監督、演劇を専門とする国際イエイツ協会会長と鼎談をし、イエイツと能楽、特に狂言に関して、第一線で活躍する研究者から初学者までに刺激を与えた。

予定より研究期間が2年伸びたことによって、『猫と月』から発展させイエイツ演劇にとっての聖人と周縁にいる者の狂言性、友やキリストの意味をイエイツの演劇全体を総合的に捉えて考察し始め、2021年秋IASIL Japanの国際大会、および、韓国のイエイツ協会の創立30周年記念学会に招聘されて発表した論文で検討を始め、今後の研究へ発展させる方向を見せた。

研究対象としての日本人に関して、久米民十郎については、資料蒐集をし直しデジタル化を始めたが、特筆すべきは、賀川豊彦のイエイツへの影響についての発見で、賀川研究者にも知られていず、国内外で発表したところ、反響が大きく、今後研究を進める予定である。

本研究を総括するものとして、『猫と月』に関する研究会・シンポジウムをハイブリッド開催、私に加えた3名の研究者による論文発表、狂言師によるコメント、4人と会場（対面とZOOM上）の意見交換を冊子にまとめた。ここで提起されたことも将来の研究課題とする。

(2) パウンド - 詩学と狂言

本研究を支えるパウンドに関して、その詩学だけでなく、これまで着目されてこなかった劇『主人公』について研究を本格的に始めた。本戯曲はイエイツが「能」として書いた『鷹の井』初演時に同時公演される「狂言」として書かれた。（実際には上演されなかった。）2021年オンライン開催された International Yeats Society の大会で本戯曲の狂言性についての発表を行い、その存在を世界の研究者に示した。上演可能性を狂言師と検討中である。また、『詩篇』のなかでの能の演目・登場人物の取り扱いに、『主人公』からの発展が見られ、能と狂言がどのようにパウンド作品全体のなかで昇華していくかを今後の研究課題のひとつとしたい。

(3) ヘミングウェイ - 「間」の詩学とチンク

2018年パリでの International Hemingway Society の学会で、日本人研究者4名で文体に関するシンポジウムを組み、詩における文体を分析するなか、本研究の基本にある「間」とパウンドの詩学について論考した。このテーマを核に書き上げた2論文が日本のヘミングウェイ研究を総括する研究書2冊に掲載された。学会時、世界を牽引するドキュメンタリー製作者リン・ノヴィックにより受けたインタビューが、アメリカ PBS 制作のヘミングウェイの人生に関する壮大なドキュメンタリー番組の一部に収録され、世界へ発信された。上記論文2本執筆に至る資料蒐集中に、ヘミングウェイの親友でほぼ全生涯を英国軍人として生きたアイルランド出身の(チンク・)ドーマン=スミスについて、アイルランドの視点での研究の重要性を感じたため、今後の研究対象としたい。

(4) その他

International Yeats Society、日本アイルランド協会、日本イエイツ協会、国際アイルランド文学協会日本支部、日本ヘミングウェイ協会、日本エズラ・パウンド協会の事務局・理事・委員・編集委員をしており、各学会の企画・運営を行うことで、さまざまな研究者と研究交流し、また現在の研究の動向を常に追っている。公開講座や、イエイツやハーン作品に基づく狂言や朗読公演の前の講演や鼎談などで、研究の成果を一般にも還元する機会も増えた。国内では能狂言が西洋モダニズムに影響したことがあまり知られていないこともあり、新作能にあたっての依頼講演なども増えつつあり、今後も続けるつもりである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 Akiko Manabe	4. 巻 5-1
2. 論文標題 "Are you that flighty?" "I am that flighty." : _The Cat and the Moon_ and _Kyogen_ Revisited	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 International Yeats Studies	6. 最初と最後の頁 53, 70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 真鍋晶子	4. 巻 1
2. 論文標題 近江と能狂言：湖東湖北をめぐる	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 近江・湖東ゴーストハンティング	6. 最初と最後の頁 12, 15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 真鍋晶子	4. 巻 27
2. 論文標題 ハ-ンと漢字	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 石仏：くまもとハ-ン通信	6. 最初と最後の頁 25, 25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 真鍋晶子	4. 巻 170(43巻第4号)
2. 論文標題 ハ-ンのアイルランド	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 季刊民族学	6. 最初と最後の頁 18, 25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 真鍋晶子	4. 巻 38
2. 論文標題 アイルランドからアメリカ、ヨーロッパへ、そしてborderのない世界への希求	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 エール(アイルランド研究)	6. 最初と最後の頁 138, 141
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 真鍋晶子	4. 巻 162
2. 論文標題 アイルランドと狂言	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 湖国と文化	6. 最初と最後の頁 88, 91
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 真鍋晶子	4. 巻 1
2. 論文標題 笑いと鎮魂の詩学 paradiso terrestreとtragic joy	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本英文学会大93回大会(2021年度)proceedings	6. 最初と最後の頁 00,00
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 真鍋晶子	4. 巻 36
2. 論文標題 ウィリアム・バトラー・イエイツの「聖者」と賀川豊彦	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 雲の柱	6. 最初と最後の頁 87, 99
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計19件（うち招待講演 7件 / うち国際学会 12件）

1. 発表者名 真鍋晶子
2. 発表標題 イエイツにとってのStone Cottage
3. 学会等名 日本イエイツ協会・日本パウンド協会合同学会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 真鍋晶子
2. 発表標題 イエイツの劇における聖なるもの
3. 学会等名 日本アイルランド協会年次大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Akiko Manabe
2. 発表標題 Friendship and Sacredness in Yeats's Drama
3. 学会等名 International Yeats Society Biennial Symposium（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 真鍋晶子
2. 発表標題 ケルト神話と口承伝統
3. 学会等名 第23回斎宮セミナー（招待講演）
4. 発表年 2022年

1 . 発表者名 Akiko Manabe
2 . 発表標題 Pound's kyogen, _The Protagonist_
3 . 学会等名 Ezra Pound International Conference, Kyoto (国際学会)
4 . 発表年 2022年

1 . 発表者名 Akiko Manabe
2 . 発表標題 Literary Friendship in England: Ezra Pound's kyogen, _The Protagonist_
3 . 学会等名 International Yeats Society Biennial Conference : Yeats and English (国際学会)
4 . 発表年 2021年

1 . 発表者名 Akiko Manabe
2 . 発表標題 W.B. Yeats's Encounter with Japanese Traditional Theatre of Noh and kyogen
3 . 学会等名 2021 Yeats International Conference in Commemoration of 30th Anniversary of the Foundation of the Yeats Society of Korea in 1990 (招待講演) (国際学会)
4 . 発表年 2021年

1 . 発表者名 Akiko Manabe
2 . 発表標題 W.B. Yeats's Revolution and Resolution through his Encounter with Nohgaku
3 . 学会等名 The 37th International Conference, IASIL Japan (国際学会)
4 . 発表年 2021年

1. 発表者名 真鍋晶子
2. 発表標題 『猫と月』のアイランド性と普遍性 能狂言をめぐる
3. 学会等名 第46回関西アイランド研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 真鍋晶子
2. 発表標題 笑いと鎮魂の詩学 <i>paradiso terrestre</i> と <i>tragic joy</i>
3. 学会等名 日本英文学会第93回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Akiko Manabe
2. 発表標題 Adaptation of Literary Works as a New Form of Criticism: Japanese Contemporary Artists' Experiment with Yeats and Hearn
3. 学会等名 International Association for the Study of Irish Literatures (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akiko Manabe
2. 発表標題 Yeats and Noh-kyogen
3. 学会等名 Theatre Roundtable, Yeats Summer School (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akiko Manabe
2. 発表標題 Yeats's Encounter with Love and Desire in Noh and kyogen
3. 学会等名 International Yeats Society Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 真鍋晶子
2. 発表標題 Literary Style as Reflected in Hemingway's Poetry
3. 学会等名 Hemingway in Paris: XVIII International Hemingway Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 真鍋晶子
2. 発表標題 Metamorphosis of Images: Lafcadio Hearn's _Snow Womam_ & Japanese Contemporary Theatre and Film
3. 学会等名 5th World Humanites Forum (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 真鍋晶子
2. 発表標題 "Are you flighty?" "I'm that flighty. ;_The Cat and the Moon_ and Kyogen Revisited
3. 学会等名 International Yeats Symposium (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 真鍋晶子
2. 発表標題 久米民十郎研究の今後
3. 学会等名 久米民十郎研究のための一次資料調査と学祭的ネットワークの設営
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Akiko Manabe
2. 発表標題 Irish-Japanese Literary Renaissance in 2017: New Productions of The Cat and the Moon, At the Hawk's Well and Lafcadio Hearn's Stories
3. 学会等名 2017 Conference of International Yeats Society (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 真鍋晶子
2. 発表標題 アイルランドからアメリカ、ヨーロッパへ、そしてborderのない世界への希求
3. 学会等名 日本アイルランド協会年次大会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計9件

1. 著者名 Akiko Manabe, Richard Kelly et al	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Cork University Press	5. 総ページ数 392
3. 書名 Crossings: Celebrating sixty years of diplomatic relationships between Ireland and Japan	

1. 著者名 Akiko Manabe, Matthew Campbell, Lauren Arrington et al	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Oxford University Press	5. 総ページ数 760
3. 書名 The Oxford Handbook of W.B. Yeats	

1. 著者名 真鍋晶子、小笠原亜衣、島村法夫他	4. 発行年 2022年
2. 出版社 小鳥遊書房	5. 総ページ数 503
3. 書名 ヘミングウェイ研究 - 30年の軌跡	

1. 著者名 真鍋晶子、辻秀雄、今村楯夫他	4. 発行年 2022年
2. 出版社 小鳥遊書房	5. 総ページ数 351
3. 書名 ヘミングウェイ研究 - 新世紀の羅針盤	

1. 著者名 真鍋晶子、海老島均、山下理恵子他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 364
3. 書名 アイルランドを知るための70章	

1. 著者名 真鍋晶子、岩上はる子他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 419
3. 書名 めぐりあうテキストたち—ブロンテ文学の遺産と影響	

1. 著者名 真鍋晶子、Sean Golden他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Cork Univeristy Press	5. 総ページ数 371
3. 書名 Yeats and Asia. Overviews and Case Studies	

1. 著者名 真鍋晶子、松村賢一、木村正俊他	4. 発行年 2017年
2. 出版社 東京堂出版	5. 総ページ数 424
3. 書名 ケルト文化事典	

1. 著者名 真鍋晶子、本田貴久他	4. 発行年 2018年
2. 出版社 中央大学出版部	5. 総ページ数 300
3. 書名 モダニズムを俯瞰する	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------